

Central Weekly Market Report

2026年1月23日

セントラル短資株式会社 総合企画部

今週（1月19日から1月23日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き調達ニーズが堅調に見られるなか、出合いの水準は0.727～0.728%を中心と なった。加重平均レートは、試し取りが実施された20日(火)にやや上昇したものの、22日(木)までは0.727～0.728%で推 移し、23日(金)も概ね同水準での取引が中心となり、週を通して落ち着いた相場展開となった。

ターム物は、ショートタームにおいて付利金利(0.75%)以下の引き合いがみられた。また、ロングタームでは3M物を 中心に引き合いが散見された。

日銀当座預金は、週初19日(月)に国債発行要因により462兆円台前半まで減少してスタートした。その後は20日(火)に 財政資金の払い(+), 21日(水)に国債発行(▲), 22日(木)に国債買入オペ(+)と、増減を繰り返す展開となつたが、変動幅 は限定的であったことから、23日(金)は、463兆円台前半での着地見込みとなつた。

なお、22日(木)・23日(金)に開催された日銀金融政策決定会合では、当面の金融政策運営について、「無担保コールレー ト(オーバーナイト物)を、0.75%程度で推移するよう促す。」として、現状維持が決定された。

●債券レポ市場

今週のGC T/Nは、0.745～0.755%での出合いとなつた。週を通してオファーサイドの勢いが強く、付利金利(0.75%) 近辺で推移した。

SCについては、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーンが軟調に推移する展開となつた。

19日(月)に実施された1Y物入札は、無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーでは、底堅く推移した。22日(木)に 実施された3M物入札は、事前予想に比べ甘い結果となり、結果発表後のセカンダリーでも小甘く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、ガス、卸売業などの業態で大型発行が見られた。

市場残高は、25.7兆円台から始まり、その後はやや増加し、26兆円前後での推移となつた。

発行レートについては、12月の利上げ後、銘柄間で格差が広がっており、日銀適格銘柄の1か月物で0.7%台後半～ 0.8%台半ば、2か月物で0.8%台前半～後半、3か月物で0.9%前後の出合いが散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り(%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/19 (月)	53,583.57	2.270	157.52	0.727	0.750	4,624,300
1/20 (火)	52,991.10	2.340	158.15	0.728	0.750	4,640,700
1/21 (水)	52,774.64	2.285	158.21	0.727	0.750	4,625,900
1/22 (木)	53,688.89	2.240	158.20	0.727	0.750	4,637,500
1/23 (金)	53,846.87	2.255	158.55	0.727	0.750	4,636,700

来週（1月26日から1月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

		国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
1/26 (月)	11月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)		GX5Y 1/27発行 3,000億円	11月の米耐久財受注
1/27 (火)	12月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)			米FOMC(1日目) S&P ケース・シラー住宅価格指数
1/28 (水)	金融政策決定会議事要旨(12月18,19日分 8:50)		40Y 1/29発行 4,000億円	米FOMC(2日目) 1月の米CB消費者信頼感指数
1/29 (木)	1月の消費動向調査(内閣府 14:00)			交付税借入 2/6借入 13,000億円 11月の米貿易収支 11月の米製造業受注 11月の米卸売上高
1/30 (金)	1月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 12月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 12月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 12月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 12月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		TDB3M 2/2発行 47,000億円 2Y 2/2発行 28,000億円	12月の米生産者物価指数 1月のシカゴPM景況感指数 10-12月期ユーロ圏GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/26 (月) 日銀予想	600	4,400	5,000	国債補完	3,400		3,400	8,400	TDB3M発行▲47,000 債還43,000
1/27 (火) 弊社予想	2,000	▲ 3,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	GX5Y発行▲3,000
1/28 (水) 弊社予想	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
1/29 (木) 弊社予想	▲ 300	▲ 5,500	▲ 5,800				0	▲ 5,800	40Y発行▲4,000
1/30 (金) 弊社予想	▲ 500	2,000	1,500	気候変動	▲ 69,700		▲ 69,700	▲ 68,200	交付税借入▲13,000 期日11,000
週間合計	2,800	▲ 4,100	▲ 1,300	—	▲ 66,300	0	▲ 66,300	▲ 67,600	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き堅調な資金調達ニーズが見込まれるため、0.727%近辺での推移が予想される。債券レポ GC T/N物のレートは0.74~0.755%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、30日(金)に3M物入札が予定されている。CP市場では、月末発行を控え、3月末越え物の発行レートの水準が注目される。

主要なイベントは、国内では、28日(水)に金融政策決定会議事要旨(12月18,19日分)、30日(金)に1月の都区部消費者物価指数、12月の完全失業率、有効求人倍率、海外では、27日(火)~28日(水)に米FOMC、29日(木)に11月の米貿易収支、30日(金)に12月の米生産者物価指数、10-12月期ユーロ圏GDP速報値などの公表が予定されている。

(※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。)

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何かの取引を誘導すること目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入